

極楽寺だより

三隅町野波瀬 3633
電話 0837(43)0625

秋の永代経法要のご案内

次のとおりおつとめいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

日時

十一月十八日(木)

昼一時半 夜七時半

十一月十九日(金)

昼一時半

講師

豊北町島戸 専福寺 住職

福田康正 師

えいたいきょうほうよう

永代経法要とは

「いつまでも(永代)お念仏のみ教え

(お経)が伝えられますように」と願

い(仏徳讃嘆)、またご門徒のご先祖

が、志を納めてお寺を護りお念仏を喜

ばれたことを感謝して(祖恩報謝)お

勤めする法要です。

ですから、「その心を大切に受け継

ぐ」ということは、「さそいあって法

を聞き、如来さまのご恩をよろこぶ」

ということでありませう。



災害義援の募金について

極楽寺だより 8月号でご案内しました『新潟・福井の豪雨災害義援金』(募金箱を 8月から 9月にかけて、本堂に設置)。募金額は、合計 25,961円となりました。有り難うございました。本願寺を通して送金しましたことをご報告致します。新潟では、豪雨に続き地震でも多大な被害が発生し、今もたくさんの方が苦しんでおられます。被災地の一日も早い復興を願い、秋の永代経法要の際に本堂に募金箱を設置致します。皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

台風お見舞い申し上げます。 若院

いやはや、本当に凄しい台風が続ききました。皆様のお宅はいかがでしたか。家屋や田畑にも大きな被害が出ていると聞いております。心よりお見舞い申し上げます。極楽寺は、本堂の下り棟、講師室の棟瓦、平瓦に少し被害が出たくらいでした。

しかし今回ばかりは自然の恐ろしき、そして偉大さを思い知らされましたね。あの風の中では、人間とはなんとちっぽけな存在かと感じたことです。

藤田省三という方は、「山というものは、本来厳しさと優しさというものが共在している場であった。山のおかげで私たちはそこからいろいろと恵みを受けている。同時に山は、一歩まちがえば命を奪われるほどに、非常に恐ろしい場所でもある。そこから人々は、決して山をあなどらない、山の前に謙虚であることを学んできた。ところがその山に観光道路が頂上まで通されたことによって、山は決して危険なものではなく、安全な遊園地の延長になってしまった。」と、自然を自分の気分を広げ、自分の気分になう場にしてしまったことで、自然は命を共に通わしながら生きる存在ではなく、人間の欲望を満たすための道具になってしまったといわれます。そうして私たちは、謙虚に頭を下げたり、その大きさを深く身を感じることを忘れてしまったのではないのでしょうか。特に都会に出ると、それを痛感します。

考えてみると、私たちは自然だけではなく、人間関係さえも役に立つか立たないかのものさしで見ているのではないのでしょうか。そのような関係には、出遇いの喜びも、感動も、そして悲しみもあるはずがありません。あるのは苛立たしさと虚しさだけのような気がします。それはそのまま今の殺伐とした世の中を象徴するような言葉でもあります。手を合わせ、頭を下げる心のみが、再び相互の関わりを呼び起こす唯一の道なのではないかと、サッシを叩く風雨におびえながら、考えたことでした。

合掌

プルトップを集めて、車椅子を！ご協力有り難うございます。



極楽寺だより8月号でお願いしました、空き缶のプルトップ回収に大変なご協力をいただいております。コンビニにお勤めの方は、段ボール箱に何箱も持って来て下さいました。野波瀬の空き缶回収時にプルトップをはずしてご協力いただきますし、晩酌のビール缶のものを少しずつ集めて下さる方もあります。本当に有り難うございます。この運動は、これからも続けていきたいと思っております。回収箱は本堂に設置してあります。

清光仏教婦人会

お寺の卓球場大盛況!

お寺の卓球場は、現在大盛況です。お寺はやはり人の声がしないとさびしいですね。子どもたちに限らず、どなたでも遠慮なくお使い下さい。但し、きちんとルールは守って下さいね。

- ① お寺の人に了解をとること。(お参りや行事があるときは使えません。)
- ② 使う人の名前を、設置されたノートに書くこと。
- ③ あとかたづけをきちんとすること。
- ④ 最後に仏さまに「ありがとうございました」とお礼をすること。

